

後期始業式式辞（通信制課程）

○先週の成績会議において前期の皆さんの学習状況を確認しました。今日出席している皆さんは、前期、ある程度順調に学習が進められている人たちなのだろうと思います。

○まず、8月の全国定通総体の報告をしておきます。通信制からは剣道で、6月の県大会に優勝した野中さんが出場しました。準々決勝まで行って敗れましたが、3度の延長戦で決まるという白熱した試合だったと聞きます。その対戦相手が優勝しましたので、事実上の決勝戦でした。結果は、ベスト8ですが、素晴らしい試合内容のために特別賞をいただいで来ました。また、諏訪さんは、インターハイ、国体等に引き続きの新人戦での活躍、決勝戦6-0で優勝ということで、その圧倒的な強さは見事というほかありません。おめでとうございます。この後、賞状をお渡しします。

○さて、通学に枋木駅を利用している人が多いと思いますが、駅を降りると大きな石碑があります。

枋木市出身の作家、山本有三さん（明治20年～昭和49年）の作品「路傍の石」の一節で、「たったひとりしかない自分を・・・」というものです。

○旧枋木市のほとんどの小中学校にはこの石碑があると思いますので、皆さんもこの話は何度も聞いているかもしれませんが、簡単に小説の場面を再現してみます。

○明治時代中期の枋木町。小学校6年生の愛川吾一は成績優秀で、担任の教師・次野に何かと目をかけられていた。しかし、父庄吾は士族の家に生れながら訴訟にあけくれ家にもほとんど帰らず、母おれんが封筒貼りの内職でやっと生計を立てている状態。吾一は新しくできる中学に入りたかったが、進学をあきらめざるを得なかった。

正月、子供たちが松小屋に集まり、みんなが自慢話をはじめた時、ものはずみで吾一は、汽車の走ってくる時鉄橋の枕木にぶらさがったことがあると話してしまった。それを証明するため、彼はみんなの前で鉄橋の枕木にぶらさがることになる。汽車が来る寸前に失神した吾一は病院のベッドで目をさました。次野先生は自分をもっと大切にしよう彼を叱った。

「愛川、おまえは自分の名まえを考えたことがあるか。・・・『吾一』っていうのは、じつに、いい名まえなんだぞ。・・・吾一というのはね、われひとりなり、われはこの世にひとりしかいないという意味だ。・・・鉄橋にぶらさがるとは、べつに勇ましいことで

も、大胆なことでもないんだよ。・・・人生は死ぬことじゃない。生きることだ。これからのものは、何よりも生きなくてはいけない。自分自身を生かさなくってはいけない」(このあとに石碑の台詞が続く)

たったひとりしかない自分を たった一度しかない一生を ほんとうに生かさなかったら人間、生まれてきたかいがないじゃないか」

○実は、吾一がぶら下がったとされる橋は本校のすぐ近くにあったのです(小説はフィクションです)。JR 栃木駅は、2003年(平成15年)に高架化して現在の駅になりましたが、それまでは、今より少し北側を通っていました。

ちょうどその2003年に本校の建設工事が始まり私も見に来ました。当時はまだ本校の敷地の北西の一角を廃線になった線路が残っていて、北側の小山方面に抜ける道のほうに続いていました。巴波川に架かっていたのが吾一の橋です。ですから、グランド北側の公園の先辺りですね。

その橋が今は、栃木市総合運動公園野球場の向かい側に移設されていますので、近くに行ったときには是非見てください。

有名な小説の舞台とされる場所がすぐ近くにあったということに、何かしら浅からぬ縁を感じて紹介させていただきました。

○ところで、毎日駅を通るたびに何気なく眺めている言葉ですが、皆さんは「自分を、一生を本当に生かす」ということを自分に当てはめて考えてみたことはありますか。

○私もこの言葉は昔から知っていましたし、若い頃は励ましにもなっていたような気がします。しかし、年齢を重ねてくると向き合うのがつらい言葉でもあります。元々怠け者ですので、「本当に生かす」と言われると結構ハードルが高くて「あなたは一生を無駄にしていますか」と叱られているような気分になるのです。

そこで、私は自分なりに「自分がこの世に生まれてきた意味は何なのだろう。自分が見つけた意味に沿ってがんばって生きられればいい」と解釈するようにしています。

ですから、世間から賞賛されるような華やかな生き方でなくても、平凡でも、自立して、何かの、誰かの役に立って生きられればそれで十分だと私は思っています。

○皆さんは「自分が生まれてきた意味(自己の存在意義)」を考えたことはありますか。「別に意味なんかない」とは思わないでほしいのです。必ず意味があると思います。

○話が飛びますが、地球の生命は、海の中で、いろいろな成分がゆっくり混ざりながら反応して、何億年もかけて誕生したと言われていています。それは、宇宙の中の出来事としては、極めて希な出来事です。どのくらいすごいかというと、

今、この時計を、全部、部品に分解して、この箱に入れたと思ってください。

生命が誕生するのは、この箱を振り続けて、時計に戻るのと同じくらいの確率のようです。あり得ないですよ。確率的には、何億年も振り続けていると、1回くらいは組立たる確率があるようです。

しかも、単なる生命と言うだけでなく、私たちは自分の意識が宿った人間の体をもって存在している。これはもう、存在しているだけでも奇跡です。だから、どんな人がどんな状況だったとしても、何の意味もなく存在しているとはとても思えません。人智を超えた大いなる力によって何かのために存在しているとは思えないのです。

○ぜひ自分の居る意味を考えてみてください。自分が真剣に向き合えるものを探してください。4月には「心をこめて」と表現しましたが、前向きな気持ちでアンテナを高くしていれば、きっとその答えに巡り会えるのではないかと思います。そして、そのときにはそれを逃さないで、思い切って行動してください。

○学校に目をやると、今、就職や進学に向かってがんばっている人たちがいます。卒業生を見ると、働きながら、しっかり高卒の資格をとって、ステップアップして社会生活に戻る人たちがいます。卒業後に司法試験に合格した先輩もいます。

○私と違って皆さんには時間があります。人が1年のところ2倍、3倍かけて取り組んでも良いじゃないですか。きっと素晴らしいことがやれると思いますよ。

○自分の事や、周りの事に目を向けて、気持ちを少し盛り上げながら、後期に臨んでいただきたいと思います。以上。